

令和8年度 病虫害防除技術情報 第2号

令和8年6月1日

大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

ネギアザミウマの防除について

令和8年5月中旬に実施した巡回調査では、白ネギにおいてネギアザミウマの発生が確認されています（図1）。本虫は高温乾燥条件を好み、1か月予報（5月21日・福岡管区气象台発表）によると、気温は平年並20%、高い確率70%と、高温条件で推移することが予想されており、ネギ類（白ネギおよび小ネギ等）においてネギアザミウマの発生増加が懸念されます。圃場での本虫の発生状況に注意し、速やかな防除に努めましょう。

1. 発生の状況

5月中旬に実施した巡回調査結果

【平坦地】

発生圃場率：100%（平年：82.5%、前年：37.5%）

平均被害度：14.8（平年：15.3、前年：2.5）

【中山間地】

発生圃場率：100%（平年：76.9%、前年：50.0%）

平均被害度：5.7（平年：6.5、前年：3.1）

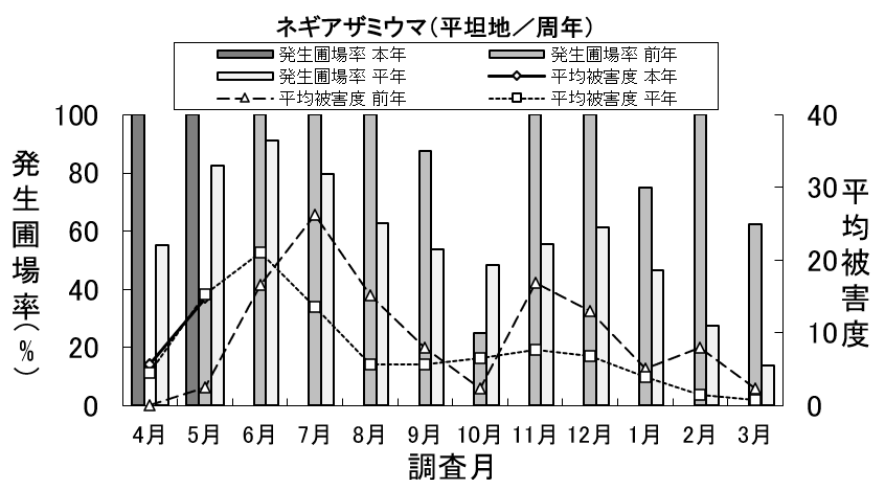


図1 白ネギ発生予察巡回調査におけるネギアザミウマの発生状況（平坦地）

2. 防除上の注意事項

- (1) ネギアザミウマの薬剤抵抗性発達を防ぐため、同一系統薬剤の連続使用は避け、ローテーション防除を心掛ける。防除に使用する薬剤は、大分県農林水産研究指導センター病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」

(<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujosho/boujoshishin.html>)の「ねぎ」の項を参照する。なお、薬剤によっては指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、容器のラベルに記載されている使用時期、使用回数等を遵守し使用する。

病害虫対策チームホームページ

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujosho/>



- (2) 圃場内および周辺の雑草はネギアザミウマの増殖源となるため、除草を徹底する。ただし、防除前に除草を行うと、圃場外からの飛び込みにより被害が拡大する恐れがあるため、圃場内のネギ類（白ネギおよび小ネギ等）に対して防除を実施した後、薬剤の効果が残っている内に速やかに除草を行うよう留意する。また、アザミウマ類は風で移動するため、特に圃場の風上側の除草を心がける。
- (3) 次作以降のネギアザミウマや本虫が媒介するえそ条斑病（IYSV）の蔓延を防ぐため、残渣の処分や圃場周辺の除草を徹底する。
- (4) ネギアザミウマは、ユリ科、アブラナ科、ウリ科、ナス科、キク科およびバラ科など多くの園芸作物に被害を及ぼす害虫であることから、作物体を注意深く観察し早期発見・早期防除を心掛ける。